



# かどや通信

第18号

発行日：平成29年1月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

## 思い出の着物あでやかに蘇る

### 岡千ヨコきものふく展

今年のかどやは、正月休み明け早々の四日から、初春にふさわしい豪華な飾りつけの「岡千ヨコ」きものふく展」で幕を開けた。

岡さんは、ブティック「ドンナベラ」(多気郡明和町のオーナー兼デザイナー)で、自らが「きものふく」と名付けた作品約三十点が展示された。「きものふく」とは、着なくなってしまった和服を、洋服に仕立て直したもので、お母様から譲られたものやお気に入りの着物等がチエニック(長さがヒップが隠れるくらいからひざ丈くらいまで)、ブラウスよりも長くワンピースよりも短いトップスやコート、スカート等のおしゃれな洋服



に生まれ変わっている。岡さんがきものふくを手掛けるようになったのは、十数年前

にドンナベラのお客様から「思い出が詰まっている着物があるが、着物を着る機会がなくて、もったいない

何とかできないか」との声に心えたことからだ。タンスに眠っていた着物たちが、長年培ってきた洋裁の技術とセンスで、着やすく、気品ある洋服として蘇った。

今回の展示も、絵羽織や色留め袖絞りや大島紬の着物等が、その特長を活かしつつ、モダンな洋服に生まれ変わっており、見学者は発想力と縫製の丁寧さに圧倒されていた。

伊勢市や志摩市のホテル等では個展を行ってきた岡さんだが、古民家での展示は今回が初めて。かどやのお正月にふさわしい飾り付けをしたいと、事前に何度も下調べを重ね、岡さんのお母様が結婚式に締めていた丸帯を使った屏風や縁取り鮮やかな敷物等は、今回の為に特注したという。

飾り付けにも工夫がこらされている。作品の立体感を出すためマネキンや大型の鏡等まで持ち込まれた。さらに、帯で作った和風バッグや豪華な生花も各所にあしらうなど、会場の隅々にまで気を配った演出が見学者をつならせた。

また、直感で感じた言葉を書や絵で表現し、自らを「田舎詩人・感謝人」と称する角谷行洋さんの作品も展示されており、岡さんの作品とディスプレイをひきたてるように控えめながら各所で優しく柔らかな光を放っている。

さらに、毎週金曜日の午後には、一階座敷で抹茶のサービスも行われるなど、至れり尽くせりだ。

このような配慮により、岡さんの展示を見るために来館された方々はもちろん、かどやの見学に訪れた観光客をもすっかり魅了した。

### ブロの矜持

驚きの展示は、昨年十二月二十八日から始まった。「展示のアイデアが湧きだしてくるのよ！楽しみにしてね」と、岡さんは下見のたびに話していたが、言葉どおりその日の朝、展示用の道具を積んだ2トン車がかどやの玄関前に横付けされた。中からは一畳分もある大型の鏡やマネキン等が続々と運び込まれ、チーム岡千ヨコとも言うべき仕事上のスタッフや幼なじみ等十名が一日がかりで飾り付けを行った。さらに正月二日・三日には豪華な生花の生け込みまで行われ、華麗な岡千ヨコの世界が出現。その努力たるや半端ではないが、そこがブロの心意気なのだところ。見学者もこの総合的な演出にうっとりだった。いやはや参りました。

## 季節の音色が鳴り響く かどや屋下がりコンサート

年末年始の屋下がりコンサートは、毎年季節感溢れるプログラムが恒例となっている。

### 《初春は華の音から》

琴の音は、かつての日本のお正月には欠かせない音だったのでは？ テレビで華やかな和服姿の女優さんが映るとBGMに宮城道夫さんの「春の海」が流れる中、お屠蘇におせち料理をつまみながら、正月気分を味わった方もいるだろう。



そこで、かどやでは毎年一月の屋下がりコンサートは「新春琴弾き初め」と題し、伊勢正派松朋会小山社中の皆さんに演奏していただいている。今年も一月二十一日に弾き初めが行われ、五十人を超える方々が新春の調べに耳を傾けた。

今回は、琴と三味線に加え、一年に続き尺八も加わった。さらに、プログラム後半ではフルートとの共演もあり、「花は咲く」「三六五日の紙飛行機」「アメイジング・グレイス」等も演奏された。

近年、琴の音色を生で聴ける機会が少ないが、独特のまやかな音が座敷に響き渡り、初春ならではの珠玉の音が流れた。

### 《長尾オルガンでクリスマス満喫》

十二月と言えばクリスマスだが、かどやのクリスマスには、長尾オルガンの調べが欠かせない。昨年十二月の屋下がりコンサートは、十一日に「長尾オルガン クリスマスコンサート」が開催された。

演奏は、長尾オルガン専属奏者といっても過言ではない元音楽教諭の巽耕一さんと、I・M・T伊勢音楽劇場会員のソプラノ歌手・青木美和さんが艶やかで澄み切った歌声でアヴェマリアをはじめクリスマスにふさわしい曲の数々を届けてくれた。

今回は、大正十年台に横浜で製造された西川オルガンも演奏された。このオルガンは、数年前に鳥羽長尾オルガン協会に寄贈されていたが傷みが激しく、今年ようやく修復に



重厚な響きが特長だ。巽さんは「選曲の幅も広がりましたし、それぞれの持つ音の違いも楽しんでいただけたのでは」と話してくれた。

### 《締めは恒例の浜口バンド！》

#### 《マーチング隊も初出演》

屋下がりコンサートの一年の締めは、昨年も「年忘れうきうきコンサート」と題して、年末には恒例の



浜口バンドが飾ってくれた。同コンサートには、これも恒例のおばさんバンド・かどやゼンサーズが前座を務めているが、今回は鳥羽マ

ーチングスポーツ少年団の初々しい演奏で始まった。かどやでは初登場となる同チームは、鳥羽小学校と加茂小学校の生徒七名の編成で、「ドラえもんうた」や「時代」等4曲をさわやかに演奏し、大きな拍手が送られた。



続いて、かどや専属のゼンサーズがギターとウクレレの弾き語りでもクリスマスソング等を演奏。休憩をはさみ、浜口バンドと親交のある北井タ子さんが「見上げてごらん夜の星を」等三曲をギターで弾き語り、最後に浜口バンドが登場した。「虹と雪のバラード」や、リーダー浜口素則さんのオリジナル曲「僕のクリスマス」、二胡による「エーデルワイス」等バラエティに富んだ六曲を披露。同バンドの確かな演奏と華やかな歌声で参加者はクリスマス気分を満喫し、昨年最後の屋下がりコンサートも楽しく幕を閉じた。

## 新人続々登場！ かどや調理倶楽部



十二月の調理倶楽部は、十月にハロウィンケーキでデビューを果たしたまきちゃんの第2弾だ。おせち用に栗きんとんの寒天寄せと健康的な黒豆ジューズを紹介してくれた。

また、まきちゃんは料理はもちろんだが、ちよこしたデコレーションで料理を華やかに演出するのも得意で、おせち料理を飾る小物作りも披露してくれた。

一月は、こちらも新人のせつちゃん、さつま芋のケーキとパイを伝授してくれた。せつちゃんはかどやゼンザースでリードキターを担当しているが、料理も滅法上手なのだ。

材料のさつま芋は、清水館長が昨年十一月に赤崎あぐりパークで収穫したものを利用した。館長のさつま芋はかどやの来館者に配ったりしていたが、大豊作だったため大量に年を越してしまい、ならばとさつま芋ケーキで大量消費を狙ったのである。しかし、寒さに弱いさつま芋は傷ん

でいるものも多く大苦戦を強いられしたが、出来栄は上々だった。

また、今回はテーブルコーディネート資格を持つまゆみさんから試食の際にテーブルを飾らせてもらってもいいかしら」とのうれしい申し出があり、「是非、ぜひ」と二つ返事でお願した。

これまでの試食は、台所の調理台で行っていたが、今回は庭の見えるカフェに場所を移動。白いテーブルクロスと白い食器にグリーンのナプキン、中央のガラス食器には水仙とワイヤープランツという葉をあしらうなど、カフェは魔法がかけられたように大変身を遂げていた。

ティーパーティに招かれたようなおしゃれな雰囲気での試食会に、参加者は満面の笑顔で、会話も弾み、すくすく得した気分よ」と大満足の様子だった。



（かどやのカフェが大変身。セットで、笑顔が大きく広がった。）

## かどや塾で恒例のしめ縄作り

十二月十日に開催された第四十回かどや塾では恒例のしめ縄作りが行われた。

今回もまず、鳥羽市教育委員会・文化財専門委員の野村史隆さんがしめ縄の由来等を解説した後、湯本武司さん親子によるしめ縄作りのデモンストレーションが行われた。

湯本さんは、家業の手伝いで長年年末にはしめ縄作りをしてきた熟練者である。

しめ縄作りは、予想以上に力のいる作業だが、湯本さん親子の懇切丁寧な指導により、初心者とは思えない見事なしめ縄を完成させた。



## 縁の下の仲間たち④

### 花と小父さん

かどやの活動を支える縁の下では、男性陣も得意分野で力を発揮してくれている。今回は花を愛でる小父さんたちを紹介しよう。

昨年の夏頃から道路に沿って置かれているプランターや中庭に定期的に水やりをする男性が現れた。秋には菊花展で目にするような大輪の菊の鉢まで出現。冬の庭には、かわいい葉牡丹の鉢が置かれている。自宅の庭からかどやに似合う旬の花々を運んでくれているのは、やや強面のソリオさんだ。一昨年に大病を患い、そのリハビリを兼ねて鳥羽駅付近の花の手入れをするようになったことで、そのついでなんざ」とこともなげに話す、ありがたいきここの上なした。

また、かどやの玄関には季節ごとに花のオブジェが飾られるが、これはマコトさんの作品だ。年末には、親戚のフミタカさんとの共同作業で豪華な門松を飾ってくれた。

日々の生け花は、千エミちゃんとサカエちゃんがせっせと生け込んでくれているが、男性陣の花を愛でるパワーにも脱帽だ。

そんな方々に、かどやは支えられている。



テーマは「鳥羽」  
絵画展と写真展

十二月の展示は 野村昭輝絵画展「日」(十六日)と 写真が語る鳥羽の明治大正昭和「十八日」(二十六日)で、いずれも鳥羽がテーマだ。

野村さんは、絵筆を握って半世紀以上になり、これまでに二千点以上の作品を描いてきた。鳥羽の大型商業施設ハローや玉城のポナール等で毎年個展を開いているが、かどやでの出展は初めてである。



今回は、ここ二十一年間で描いた鳥羽の風景画を中心に、静物画を含めた三十三点が展示された。

野村さんは絵画教室も開いており、ファンも多く、展示期間が短期にもかかわらず、大勢のファンが見学に訪れた。

写真展は、鳥羽市教育委員会が所管する明治から昭和にかけての鳥羽

の風景を写した約三十点が展示された。エレベーターがあった頃の鳥羽駅前や人で溢れていた岩崎通り「鳥羽一丁目」、春祭りの様子などがあり「懐かしいなあ」「この法被着とるの俺や」等、写真を通して当時に思いを馳せる人もいた。

かどやでは、今後も鳥羽の写真展を計画している。昔の写真をお持ちの方は、是非「一報を」。

〔貸部屋で陶芸教室〕

なかまち会会員の光和窯の村上光男さん主催の陶芸教室がかどやの貸部屋を利用して行われた。

通常は、光和窯の工房で行われているが、参加者が多かったためかどやを使用することになったもの。



名古屋からの団体だったのが、和の空間での制作を楽しんでいただけだった。

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆  
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成28年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで27年度には、301名の方々に会員登録いただきましたが、今年度はさらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、平成29年度の手続きにつきましては、3月下旬にお知らせする予定です

本年度(H28/4/1～H29/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713